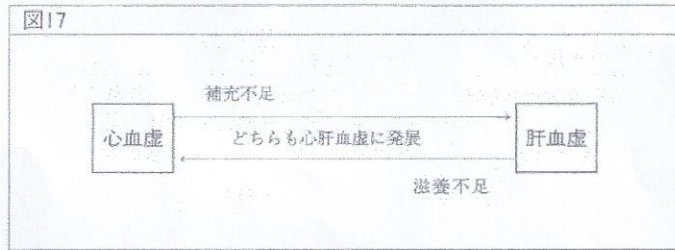


《肝の病証》 (わかる中医学入門 p91~)

① 肝血虚 p94

肝の蔵血機能の低下(目、爪、筋)+全身性の血虚症状(顔面蒼白、舌淡白、乾燥)

方剂: 四物湯 p156 当归补血汤(黄耆・当归) , 芍药甘草汤
内外伤辨惑论 伤寒论



心の生理 p13

* 心肝血虚(不眠、不安、多夢、動悸)…酸棗仁湯 p161

② 肝陰虚

肝血虚 + 虚熱(ほてり、熱感、舌紅、口乾、五心煩熱、盗汗、裂紋)

五心煩熱…両手足 + 胸中に煩熱のあるもの

盗汗…寝汗。眠ると汗が出て、目が覚めると止むもの

裂紋…舌体にみられる裂溝

方剂: 四物湯 p156 一贯煎(沙参、麦冬、当归、生地黄、枸杞子、川楝子)

肝血虚も肝陰虚も同じ
四物湯
地黄、当归、芍药、川芎
※ 臨床では肝陰虚
→ 肝腎陰虚となる。
4p-2目

③ 肝気鬱結

疏泄の失調(頭脹痛、胸脇苦満、口苦、脈弦、腹脹満、残便感)

方剂: 柴胡疏肝散 p161

④ 肝鬱血虚(血虚気滯)

肝気鬱結 + 肝血虚

⑤ 上記の他に経前のイライラ・乳房脹痛・倦怠感・嗜眠・下痢

方剂: 逍遥散(加味逍遥散) p162

当归、芍药、柴胡、白朮、茯苓、甘草、生姜、薄荷
加味逍遥散…丹桅逍遥散
牡丹皮、山梔子、は血熱を治す可涼血薬

⑥ 肝火上炎(←肝鬱化火←肝気鬱結)

肝気鬱結 + 実熱(イライラ、怒鳴る、頭脹痛、頭のふらつき、面紅、目の充血、突発性

難聴、舌苔黄、脈弦数)

方剂: 大柴胡湯 p153

いつも怒鳴るの2"は必ず"にや"込ん"爆発

⑦ 寒滯肝脈(or 血虚受寒)

肝血虚 + 寒邪(少腹・下肢内側などの寒冷・疼痛。冷えると増強⇔温めると軽減)

方剂: 当归四逆湯(当归四逆加呉茱萸生姜湯) p155

邪は虚がおると入り込やかい。

⑧ 肝陽上亢

肝陰虚 + 実熱(のぼせ・イライラ・顔面紅潮・目の充血など)

虚実錯雑…症状は実熱⇔原因は肝(腎)陰虚

呉茱萸・生姜
<伤寒论> 若其人内有久寒者宜当回阳。

方剂: 七物降下湯 p168

釣藤散に肝陽上亢と書かれているが、陰虚に対応する処方ではないので、七物降下湯もあげた。

どちらも風をしずめる作用がある。肝陽がのぼつと風が吹きとらうの2"ハッキリと区別しにくい